

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 733 号 令和 4 年 6 月

令和 4 年度第 1 回全国獣医師会会長会議出席報告

副会長理事 白 永 伸 行

この令和 4 年 4 月 27 日(水)、明治記念館（東京都港区）において開催された公益社団法人日本獣医師会（以下「日獣」）の令和 4 年度第 1 回全国獣医師会会長会議に出席しましたので、その状況を報告いたします。（昨年度から田中会長が地区理事として在任されているので、副会長の小生が出席しました。）

詳細については、日本獣医師会雑誌に掲載されると思いますので、ここでは概略の説明にとどめます。

まず始めに日本獣医師会・藏内勇夫会長からの挨拶があり、コロナ対策などで多忙な中の参加に対する謝意、コロナ第 7 波への懸念とともに、本年 11 月開催予定の第 40 回日本獣医師会第 21 回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会への参加と協力要請がありました。

次に議長及び副議長が選出され、挨拶がありました。

ついで議事の審議が開始されました。まず説明報告事項として、第 1 に愛玩動物看護師法施行後の対応に関する件があり、本年 11 月上旬の予備試験と来年 2 月の第 1 回国家試験が予定されているゆえ、今現在愛玩動物看護師は存在しないのですが、名称使用制限に関する件については留意するよう通知を再読して頂きたい旨でした（雇用者の獣医師も罰せられる）。そこで動物看護師がなぜ「愛玩動物」にこだわるのかなどの日獣の考えを問われた際に「すべての獣医療に必要と言う考えを持っているが、とりえず小動物を先行する形となった」との回答でした。

次に第 21 回アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会の開始に関して藏内会長からワンヘルスをアジアに発信してぜひ成功させたいとの強い意欲を述べられましたが、各地方獣医師会の参加人数ノルマや各県への

説明訪問に関する経費節減についての質問がありました。

次に「野口英世アフリカ賞」に関する報告、そして最大の懸案事項であるマイクロチップの装着と登録の義務化に向けた対応に関する件に関して経緯などの説明がありました。また問題点（日獣会誌 75 に投稿済）の指摘がなされこのままでは大幅な赤字が毎年見込まれるなどの懸念が示されました。

今回監事の指摘と要求により「環境省と指定登録機関での締結した契約内容がわかる資料」が提示され、指定登録機関に応募するか否かという重大な決定事項が事務局レベルの協議にとどまっていたことが監事から異例の強い批判がありました。環境省から示された「動物愛護管理法に基づく指定登録機関の募集について」の公募要領には、手数料や登録件数が一定の要綱を満たさない場合にも国からの補填は困難であることや個人情報の保管や利活用が認められないなどがあることを熟読した上で応募するように明記されていますが、これらのいきさつが理事会で計られて十分協議されたのかに疑問が残るような印象を受けました。

また当会（山口県獣医師会）は、日獣が自民党獣医師問題議員連盟宛に要請された「市町村などから地方獣医師会への狂犬病予防事業の一括委託など」という表現について削除するように求めるために、小生が問題点や今後の懸念について質問を行いました。しかし踏み込んだ議論もなく、むしろ某政令都市地方獣医師会から成功事例と情熱で解決できそうな意見まで頂戴しましたが、政令市や当該市だけの場合は市との一括受託などは可能であろうが、多く

予告

令和 4 年度定時総会の開催

出欠はがきを 6 月 8 日 (水) までに本会事務局に返送してください。

- 日 時 令和 4 年 6 月 12 日 (日) 午前 10 時から
- 場 所 山口県セミナーパーク 研修室 101 号
- 議 題 あらかじめ送付する総会議案書による
- その他 定時総会終了後に、令和 4 年度山口県獣医師連盟通常総会を開催します。

の市町村を抱える地方獣医師会においては一括事業を進めることが容易ではないのではないかとの感想を持ちました。

最後に、ウクライナ避難民の飼育犬に対する支援対応についての説明が示されました（4/28プレスリリース）。最後に連絡事項があり、副議長から当面の主要会議の補足説明と長時間の活発な議論に対する謝意を持って閉会となりました。

今回会議に出席して強く印象に残ったのは、マイ

クロチップ事業やワンストップサービスなどの混乱している現況に対して、この法整備の目的はそもそも不幸な動物を生まないために、犬猫の遺棄など生命を軽視するような飼い主や悪徳繁殖業者などへの取り締まりなどの一環として管理することなのに、現在の議論が体系的なことを忘れていて各論で頓挫していることへの憤りを指摘した質問と長時間のやりとりがあったことを付記して報告を終わります。

令和4年度第1回理事会開催報告

常務理事 酒井 理

令和4年5月19日(木)13時30分から、県獣医師会館2階会議室において、令和4年度第1回理事会が開催されましたので、概要を報告します。

オンライン参加1名を含め、理事13名中12名、監事3名全員に出席いただき、6件の議決事項について審議いただくとともに、2件の報告を行いました。

理事会における主な説明は次のとおりです。

第1号議案 令和3年度事業報告及び決算について

学会・講習会等は、基本的な新型コロナ対策を行い、すべての事業を実施したこと

狂犬病予防注射実施頭数は、毎年減少しており、令和2年度までの10年間で約15,600頭減少したが、令和3年度は、前年を65頭上回る実績となったこと

学校飼育動物保健衛生指導は、48名の協力獣医師により、飼育動物の治療を46件、飼育指導を1回、講習会を1回実施したこと

傷病鳥獣保護・救護は、49名の協力獣医師により、73件の保護救護を実施したこと

県獣医師会館の新規取得検討は、4名の委員からなる検討会議を立ち上げ、本年3月に第1回会議を開催したこと

決算の事業収益は、傷病鳥獣の県の委託料が大幅に減額されたこと

経常費用は、昨年7月から職員が1人となったことから、給与手当等が減少したこと

県学会、講習会等すべての事業を実施したため、前年度に比べ、印刷製本費、諸謝金等が増加したこと

第2号議案 令和4年度定時総会について

新型コロナの影響により、過去2年間の定時総会は、規模を縮小して、来賓を招待せずに表彰も実施しなかったが、今年度は、通常どおりの開催とすること

第3号議案 新規加入会員について

関係支部長を通じて、13名から入会届の提出があったこと

第4号議案 任期満了に伴う職域部会及び各委員会委員について

本年5月末までが任期の各委員会の委員について、各支部長から次期委員の推薦があったこと

職域部会委員会と学会運営委員会については、現在の委員が留任となっていること

第5号議案 令和4年度会長表彰（県獣、中獣連、日獣）について

関係支部長から、山口県獣医師会会長表彰候補4名、中国地区獣医師会連合会会長表彰候補6名、日本獣医師会会長表彰候補2名の推薦があったこと

第6号議案 支部長交代について

徳山支部は、三谷恭二先生から橋本介志先生に、宇部厚狭支部は、米澤弘雄先生から網本昭輝先生に、それぞれ支部長が交代する旨の報告があったこと

報告事項1 第50回中国地区獣医師大会・令和4年度獣医学術中国地区学会について

令和4年9月3日(土)～4日(日)に、山口グランドホテルで開催する中国地区大会・学会では、1日目に**市民公開講座、特別講演、獣医師大会**を予定していること

中国地区学会は、産業動物を2日間、小動物を2日目に2会場で、獣医公衆衛生を2日間、それぞれ開催する予定であること

参加費は、中国地区獣医師会員と学生・動物看護職が2千円となっているが、本会会員の参加費は、本会が負担すること

本会会員の**発表者の旅費**は、本会が負担すること

報告事項2 第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会について

日本獣医師会から、FAVA大会への本会会員の参加目標人数が35人とされたこと

第1回学会運営委員会において、本会会員への**FAVA大会参加支援制度**を設けることとしたこと

以上、議決事項6件、報告事項2件について審議していただき、議決事項はすべて承認されました。

第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会への参加支援について

常務理事 酒 井 理

5月12日(木)に開催された第1回学会運営委員会において、第21回アジア獣医師会連合(FAVA)大会への本会会員の参加を促すため、支援制度を設けることが決まりました。

本会ホームページに申込書を掲載しますので、多くの会員に参加いただきますよう、御協力をお願いします。

1 会員への支援

FAVA大会に参加する本会会員に参加費の一部を助成する。なお、交通・宿泊費は会員の自己負担とする。

区 分	助成額
全日参加	上限 30,000 円
1日参加	上限 20,000 円

※参加申込人数が多い場合は、助成額の一部を減額する

2 申込み手続き

FAVA大会参加助成を希望する会員は、別紙申込書に必要事項を記入の上、7月20日(水)までに、ファックスまたはメールにより本会事務局に申し込む

《参考》FAVA大会 獣医師会員参加費

区 分	第1次登録(8/1締切)	第2次登録(9/30締切)	当日登録(10/1以降)
全日参加	30,000 円	40,000 円	50,000 円
1日参加	20,000 円	25,000 円	30,000 円

別紙申込書

山口県獣医師会事務局宛

第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会・第40回獣医学術学会年次大会参加登録申込書

令和4年 月 日

氏 名	
電話番号	
携帯電話番号	
メールアドレス	
勤 務 先	
参加登録の区分	全日・1日（ 日）
ガラディナーへの出席の有無 ※参加費8千円は個人負担	出席する ・ 出席しない ※選んでください
ホテルの手配の依頼の有無	依頼する ・ 依頼しない ※選んでください
※ホテルの手配を依頼する場合	希望するホテル名（ ）
	宿 泊 日 （ ）

○7月20日(水)までに、FAXまたはメールで、山口県獣医師会事務局に申し込んでください

○事務局から到着確認メールを送りますので、数日経ってもメールが届かない場合は、連絡してください

令和4年度獣医学術中国地区学会における発表について

常務理事 酒 井 理

第50回中国地区獣医師大会・令和4年度獣医学術中国地区学会を、本会の主催により次のとおり開催することになりました。今年度は県学会を開催しないため、本会会員や学生等は中国地区学会での発表となります。

別添開催要領・講演要旨記入要領に従って、多くの皆様に発表していただきますよう御協力をお願いします。

- ◆講演要旨の提出： 令和4年8月1日(月)まで
- ◆発表用ファイルの提出： 令和4年8月17日(水)まで

第50回中国地区獣医師大会・令和4年度獣医学術中国地区学会開催計画(案)

- 1 期 日 令和4年9月3日(土)～4日(日)
- 2 場 所 山口グランドホテル (山口市小郡黄金町1番1号)
- 3 日 程
 - (1) 市民公開講座
 - 日 時：令和4年9月3日(土) 14:20～15:30
 - 講 師：国立感染症研究所 獣医科学部長 前田 健先生
 - (2) 特別講演
 - 日 時：令和4年9月3日(土) 15:40～16:10
 - 講 師：農林水産省職員
 - (3) 第50回中国地区獣医師大会
 - 日 時：令和4年9月3日(土) 16:20～18:00
 - (4) 獣医学術中国地区学会
 - ①日本産業動物獣医学会 (中国地区) 山口グランドホテル2階 鳳凰
 - 第1日目 令和4年9月3日(土) 12:30～14:10
 - 第2日目 令和4年9月4日(日) 9:00～16:00
 - ②日本小動物獣医学会 (中国地区) 令和4年9月4日(日) (2会場で開催)
 - 第1会場 山口グランドホテル2階 孔雀 9:00～16:00
 - 第2会場 山口グランドホテル1階 グレイスホール 9:10～16:00
 - ③日本獣医公衆衛生学会 (中国地区) 山口グランドホテル3階 末広
 - 第1日目 令和4年9月3日(土) 12:30～14:10
 - 第2日目 令和4年9月4日(日) 9:00～12:00

4 参加費

中国地区獣医師会会員	学生・動物看護師	そ の 他
2,000 円	2,000 円	5,000 円

※山口県獣医師会会員による学会参加費2,000円は、本会が負担します。

※山口県獣医師会会員による発表者の旅費は、本会が負担します。

別添1

令和4年度獣医学術中国地区学会開催要領

- 1 期日及び場所
 - 期 日：令和4年9月3日(土)～4日(日)
 - 場 所：山口グランドホテル (山口市小郡黄金町1番1号)
- 2 講演要旨の作成・提出
 - (1) 講演要旨の作成は、令和4年度獣医学術中国地区学会講演要旨記入要領 (別紙) により作成する。
 - (2) 講演要旨の提出は、令和4年度獣医学術中国地区学会発表申込書を添えて、メールで、令和4年8月1日(月)必着により、山口県獣医師会事務局あてに送付する。
※メールアドレス yama-vet@abeam.ocn.ne.jp
 - (3) 学会部門は、学会幹事の協議で区分を変更することもある。
 - (4) 学会の発表様式
 - ア 発表者は、1題8分 (講演開始から6分まで青ランプ、8分で赤ランプになるとブザー1回) 以内とし、質疑応答は2分以内とする。(10分でブザー2回)
 - イ 発表はパソコンを用い、液晶プロジェクター1台でスクリーン1面による発表とする。
 - ウ スクリーンのサイズは 4:3 及び16:9 に対応する。
 - エ 発表時は舞台上に設置しているキーボード・マウスでスライド操作を演者自身で行う。
 - オ 原則として動画は受け付けない。動画やアニメーションを使用する場合は、事前に事務局まで連絡のうえ、各自でパソコンを持参し備付けのプロジェクターを使用し、責任を持って映写する。
 - (5) 発表に関する映写
 - (備付けのプロジェクター・パソコンを利用する場合)
 - ア Microsoft Power Point (Windows版) で作成する。Power Point (Mac版) は使用しない。

リレー随筆

長北支部 末 永 明 典
(深川養鶏農業協同組合)

<経歴紹介>

私は、昭和59年北里大学獣医学部を卒業後、獣医師免許を取得して、家業である養鶏業を継ぎました。平成元年から嘱託獣医として深川養鶏農業協同組合に勤務し、その後職員として入組。総務部長、プロイラー事業部長、経営構造対策担当部長を歴任し、平成14年に理事に就任。平成20年に代表理事に選出され現在に至っています。

大学時代に「ライフサイエンス」を学びましたが、その中の養鶏研修でも、特に鶏の免疫学と栄養学を叩きこまれました。鶏の治療ではなく予防、また機能性食品としての動物性タンパク「チキン」の重要性について、飼育、製造、販売する立場となったことで改めてその大切さを感じております。

<組合の業務内容>

現在、私が代表理事を務めております深川養鶏農業協同組合は、来年創立75周年を迎えるようとしています。これもひとえに当組合を愛し、お引き立ていただいた皆様のおかげと厚くお礼申し上げます。

現在の事業内容を簡単に申し上げますと、従業員数は403名（パート・技能実習生含む）、売上高は2022年3月期で104億円、経常利益28百万円となっています。

種鶏を育成し、その種鶏が産んだ卵を孵化し雛にします。育てた雛は「長州どり」として約50日で出荷され、解体処理して鶏肉となります。その鶏肉を使って、加工品を製造販売するインテグレーターと呼ばれる業態となります。日本では毎年約7億羽の鶏が処理されていますが、東北や南九州の大規模産地がほとんどを占め、当組合での処理はその約1%に満たない程となっています。また他にも、昭和43年の第17回全国菓子大博覧会で内閣総理大臣賞を受賞した、長年皆様にご愛顧いただいている「鶏卵せんべい」も当組合が製造、販売をしております。

「長州どり」や「鶏卵せんべい」という商品名はご存知の方が多くいらっしゃるのですが、それを製造、販売しているのが深川養鶏農業協同組合だとはあまり認知されていませんので、そこはまだ私どもの努力不足だと思います。多くの皆様に「長州どり」や「鶏卵せんべい」と深川養鶏がイコールで結ばれるよう、さらに精進していく所存です。

<H26年鳥インフルエンザ発生教訓>

私が理事に就任して2年目の平成16年1月に、山口県阿東町で実に79年ぶりに日本国内での高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。当時は

消費者の皆様にも鳥インフルエンザに対する知識がなかったため、食べても何の問題もない安全な鶏肉や鶏卵の消費が減退するなど、風評被害により養鶏業界はかつて経験したことのないような嵐に巻き込まれました。当組合も同じ山口県というだけで多くの取引を断られ、お客様からの問い合わせでも「スーパーで販売している長州どりは食べても大丈夫なのか」と今では考えられないような内容のものもあり、大幅な損失を計上することとなりました。

その後は、毎年のように冬場になると鳥インフルエンザの脅威にさらされ続けることとなり、防疫体制の充実を図るなどして万全の体制を整えたつもりでした。

しかしながら、忘れもしない平成26年12月29日に激震が走りました。当組合の種鶏農場で死亡鶏の羽数が多くなっているとの報告があり、簡易検査キットで調べたところ、陽性が確認されたのです。遺伝子検査が実施され、翌12月30日には高病原性鳥インフルエンザH5亜型であることが確定し、直ちに発生種鶏農場の全て、約3万7千羽の種鶏の殺処分が開始されました。家畜保健所を始めとした山口県や長門市の職員の方々、延べ500人が8時間交代での作業のおかげで、同日深夜に殺処分が完了しました。その後も鶏舎の消毒作業や消毒ポイントでの車両への消毒作業など、年末年始の休み返上で協力いただいた方々には今も深く感謝しています。

このときは、まさか深川養鶏で、どうして深川養鶏で、あれほど警戒していたのにとの思いが溢れ、一時はこのまま倒産するのでは・・・との考えにも囚われました。

しかし、関係機関各位のご協力とご尽力により月が替わった1月16日には搬出制限区域が解除され、1月22日には移動制限区域も解除されました。種鶏場という組合業務の最上流での発生であったため、長期に渡って経営への影響が懸念されましたが、全国と同業者から雛不足を補うために、種卵や雛を融通していただくなど業界をあげてご支援を賜りました。

また、いつもご愛顧をいただいている、やまぐち生協の組合員様方や長門市内の焼き鳥ファンから多くの激励レターやメッセージなどもいただき、地域やお客様に支えられていることを強く実感いたしました。今後も深川養鶏グループの全従業員で心を込めたチキンを供給し続けて参ります。

<コロナ禍の対策>

当組合の主要事業は食品製造業なので、従業員一

同、日頃から手指洗浄、アルコール消毒、マスク着用など徹底した衛生管理は習慣づいております。コロナ禍3年目になりましたが、従業員やそのご家族の協力もあり、コロナによる工場停止等の不測の事態に見舞われることなく、消費者の皆様へ安全・安心な鶏肉を安定供給できていることをありがたく思っております。

<日本における疫病対策>

中国の兵役23万人の検疫で日本でのコレラまん延防止対策を実行した「後藤新平」に学ぶところが多大にある。

資本主義経済が高度化するなかで必ず重要となってくる「交通」「医療」「教育」の三つである。「医療」というより「衛生」すなわち「生を衛る」という概

念が非常に大事ではないかと思えます。

これからの日本の「都市づくり」「行政改革」「人材育成」のビジョンを考えるには、根底に「衛生の精神」がなくてはならないと考えるところが多くあります。

最後に後藤新平の名言を紹介して終わりといいたします。

「その危険の恐るべきこと、弾丸より大なるものがある」

「金を残して死ぬのは下だ。事業を残して死ぬのは中だ。人を残して死ぬのは上だ。」

次は、大学の先輩の山口支部「さかた獣医科」坂田昭次先生にバトンをお渡しします。

ピラティス

美祿支部 鶴田 祐哉

(農林総合研究センター畜産技術部)

今年、齢30を迎えることになり、様々なことで年齢を重ねていると感じます。野菜の美味しさや美術館の面白さが分かるようになった等、良かった点も多いのですが、反面、やや気になる点もあり、その筆頭が体力の衰えでしょうか。20代中盤までは、夕方から翌日の朝まで釣りをしても、友達と深夜までお酒を飲んでも、一晩寝ればそれなりに回復していましたが、最近は日中活動するだけで体力が尽きてしまい、休みの日でさえも夜に外出するのが億劫です。ここ2年間のコロナ禍で外出する機会が減ったのも体力低下の一因なのでしょうが、とにかく、まだギリギリ20代なのにこんなことではまずいと感じ、ちょっとは運動でもしようと考えました。しかしこれまでも定期的に、運動やるぞ！と意気込むのですが、飽き性なため中々続きません。ランニング、NHKの筋肉体操、Nintendo Switchのフィットボクシングにリングフィットアドベンチャーと思い出したように体を動かしては、一週間と続かずにやめてしまいます。激しい運動は続かないので、あまり生活の負担にならずに、何か続けられる運動はないかなと探してみたところ、ピラティスというものを見つけたのでご紹介します。

ピラティスとは、ドイツ人ピラティス氏が兵士のリハビリのために開発したエクササイズで、インナーマッスルを強化し、体全体のバランスを整えることで、美しい姿勢、しなやかで自由自在に動く肉体など、理想的な体と健康に導いてくれる、という

ものです。ぱっと見はヨガに似ているのですが、こちらはインナーマッスルを鍛える筋トレです。またヨガは腹式呼吸を行うのに対し、ピラティスは胸式呼吸を用いるため、交感神経が働き、心と体が活性化します。準備はマット一枚設置するだけで激しい運動でもないのに、体力が尽きている平日の夜にも行える、ということで、これだ！これなら頑張れる！とピラティスを始めました。

早速やってみようとYouTubeで30分ほどの動画を探し、レッツトライ。始めるまでは、ストレッチの延長みたいなものだろうと正直余裕ぶっこいていました。開始10分くらいは、正しい姿勢をとった時の違和感で日ごろの姿勢の悪さを実感し、体の筋肉が伸びている感じや、しっかり腹筋に効いている感じがあり、いいじゃんいいじゃん、健康的じゃん。しかし、開始15分で腹筋がプルプルしだし、20分であゝとうめき声をあげだし、25分で力尽き・・・動画の最後までやりきることができませんでした。

まだ始めて一月ほどですが、早速毎日はやらなくなりました。が、いろいろな動画を試しながら、週に数回くらいは続けています。筋トレとしての効果はまだ実感していませんが、姿勢がやや良くなったような気がします。早速効果を実感できたので、今回は続けられそうです。簡単に実施でき、自分に合ったペースで進められるので、老若男女楽しめると思います。コロナ禍で体がなまっている方は、ぜひ試してみてください。

近況報告 過去・現在の愛煙家達よ！私のようになるな！（その2）

山口支部 福島和彦

（ふくしま家畜診療所）

会報5月号に掲載された投稿の続きです。

5. 痛いのは嫌だ！（外科的治療）

内科的治療の効果を判定するため、再度PET/CT検査を実施しました。

結果的には、原発病巣、肺門部リンパ節のPET反応が若干小さくなり、縦隔リンパ節についてはPET/CT検査で見える限り消失しており、ステージⅡbとなりました。

この結果を基に、外科的治療、即ち手術を行うこととなりました。担当医は、「左肺上葉部の切除と周辺部リンパ節の郭清です。切除部分が大きいので内視鏡的手術は無理で、開胸手術となります。」との事。「癌病巣が胸壁に食い込んでいないと思いますが、再度、ヨード系造影剤を使ったCT検査を行います。食い込んでいれば、日常でも痛かったり肋骨部分だと変形したりしますが、そういった兆候はありませんので安心して下さい。術後によくあるのが、肋間神経痛ですが、これも投薬で軽減できます。」との事。

「はあ～。痛くないようにお願いします。」やはり、獣医師モドキの人間としては、この程度の回答でした。ただ、手術までには、持病の糖尿病による血糖コントロールが必要とのことで、2週間ほど事前入院となりました。退院まで、食事は、1日1,600キロカロリーとなりひもじい思いで過ごしました。

ヨード系造影剤を使ったCT検査では、造影剤を打ち込まれCT検査を開始する訳ですが、CT検査開始直前・直後から体が燃えるように熱くなりました。ああ、魚が電子レンジでチンされる時ってこんなのかなと思いつつ暴れることなく踏ん張っていました。確かに、画像を見ると当初のCT像よりクリアーで癌病巣が触手を伸ばし健康部分への食い込み等良く解りました。

いよいよ手術日が近づくと看護師が「もうすぐですわね。」とか「大丈夫ですよ。」とかの声をかけてくれるのですが、逆にプレッシャーになり緊張は高まるばかり。途中で脱走したくなりましたが、そこはモドキといえども獣医師ですから何とかこも踏ん張りました。

さて、いよいよ手術当日。予定では9時開始、15時終了の予定。

前日の夜に飲まれた（実際は、寝ているところを起こされて飲まれた睡眠障害改善薬）ゾピクロン錠®の物凄い苦みが口に残る中、いよいよ歩いて手術室へ。

事前に聞いていたとおり硬膜外麻酔を実施。かなりの痛みを覚悟しましたが、左程でもなく終了。

この時に、術後の痛みの軽減のため硬膜外カテーテルの挿入とそのセティングが行われました。

さあ、いよいよ本麻酔ですが、アツという間に

真っ暗闇の中へ。

次に気が付いた時は、頭の周りのガヤガヤでした。「解る？手を握って・・・。」言われるがままに動作を実施。この時点では、手術前の感覚。「大丈夫みたい。外します。解りますか？」「はい！」「ちょっと、気道や鼻周りを綺麗にします。」気管挿入管が引き抜かれた感覚があり、その時初めて手術が終わった？と思いました。鼻に管を入れられ「（左鼻道は、）花粉症？黄色の鼻汁が凄いです。」「違います。蓄膿です。」「もう十分話ができます。多分、これで左の鼻道もすっきりしますよ。」

こんな会話をしながらも「今、何時です？」「6時です。よく、頑張りましたね。」と看護師。つまり、予定時刻を3時間も過ぎた手術だったということ。何がどうなって、3時間もオーバーしたのやら。

ストレッチャーに乗せられて、手術室から外に。愚妻が待っており、スマホの写真を見せてくれました。切除した肺です。撮影を頼みはしましたが、見たとたん「きったねー！」そう、30年も喫煙をしていた肺が10年弱で綺麗になるはずがありません。看護師からは、「30年も煙草を吸っていた割には、綺麗じゃないかな。」の言葉がありましたが、いずれにしても。ススを一杯吸い込んだものに違いはありませんしICUに行くまでの会話とも思えませんでした。

その後に、体中に心電図の単子や、血圧計、酸素センサー、足のマッサージ器（エコノミークラス症候群防止のため、ふくらはぎを中心に加圧、減圧をリズムカルに実施してました。）等々を取り付けられICUへ。その間の寒かった事。体が自然にガタガタ震えだし、看護師の「大丈夫、すぐに温かくなりますよ。」の声が無かったら、どうなっていたことやら。

その内に、再度、真っ暗な眠りの中へ。

朝なのか良く解らない中で、眼がさめました。体中に配線があり大事なところにも管があり、もうこうなったら「勝手にしてくれ！」の気分。「よく寝ていましたね。」の看護師の言葉。「どこか痛いところとかありますか。」と聞くものだから「左肩がカチカチに凝っています。」と回答。

「仕方ないですね。約7時間、手術の間、左肩を上げっぱなしだったから。まあ、そのうち肩を少しずつ動かせば治りますよ。それより、導尿管を取りましょう。取ったら自分でトイレにも行けますから。」

せめて、外すのは男の看護師にお願いしたいところだが、こちらの気持ちは無視して、さっさと導尿管が外され、周り（どこかは想像の世界で！）を温かい紙タオルで清拭された。「一番最初のおしっこ

の時に、出血したり、痛んだりするかもしれませんが、すぐ慣れますから。」

（オブラードにも包むことなく、ぱっぱと物事進めるあなたの行動と言葉が心に沁みます）と思いながら素直に頷くしか手がありません。

「もう少ししたら、朝食です！その時は体を起こしてゆっくり食べて下さい。先生の検診の後には、元の部屋に戻ります。」

元の大部屋に戻ると、同室の患者3人が一斉に「お帰り！！」こちらも「ただいま」まあ、いつの間にか仲間意識が強くなり、お互いみんな同じような病気を抱えての生活ですから。

退院が決まる度に、拍手が起きたり、帰る直前には、エレベーターまでの見送り等々。

6. いよいよ、おさらば&今後

ドレインの色彩（はじめは、トマトジュース状態でした。）と排出量も減り3日目には除去となり、本当に自由の心地よさを覚えました。その後、1週間もたったので、そろそろ抜糸の時期と思い担当医の先生に話をすると、「一針ですから、焦らなくても大丈夫ですよ。」あれだけの切開をされていて一針とは？「切開したところは、吸収糸ですから。ドレインが入っていたところは、普通の絹糸です。」

おいおい、そうするとざっくり切ったところが「カット・ガット」でドレイン部分が「パーマネント」？モドキの自分にとっては、訳がわからなくなっていました。（もう一度、外科やとく？）逆ならわかるけど。

そうこうするうちに、傷口から正中線にかけて、チリチリ痛み出し、体を動かすたびに何とも耐え難い痛みで悩まされ始めてきました。担当医に症状を話すと、「あ〜っ、肋間神経痛ですね。胸の手術ですからです。」しかし、体を動かすと極々たまに、体の中で「ゴキ」と音がし、疼痛がある旨を伝えようと、「上葉部の切除時に肋骨を2本ほど切りました。術後には、きちんと切断部分を合わせたのですが、ずれたのかもしれませんがね。肩甲骨が痛いと言われていたのは、そのためです。今度のレン

トゲン検査の時に教えましょう。肋骨が動くたびに肋間神経を刺激したりするので、痛みます。すぐにこちらが原因の痛みは取れると思いますが、開胸手術が原因の肋間神経痛は、時間が掛かるかもしれません。」

こんなこともありましたが、なんとか退院できました。

今回の我が家の騒動を振り返ると、①健康であることが常ではない事。どこに、落とし穴があるか解らない。健診の肺癌検査では、担当医の読影能力がものを言い、住民検診の肺癌検査では、2年位に1回は資格検査あるとか。検診と健診では内容が異なることが解りました。年に1回は人間ドックに入りたいものです。特に、開業の先生方は、スタッフも含めて福利厚生と言うことで受診できればそうされることをお勧めします。早期発見、早期治療がいかにか大切に身をもって感じたところです。②次に、改めて日本の健康保険制度の素晴らしさを痛感しました。納税額によって治療に係る自己負担限度額が定まっており、今回の私のように、放射線治療、抗癌剤治療、外科的治療を行っても2カ月分の支払限度額と入院中の食事代金で済みました。実際に掛かった経費が幾らになるか解りませんが、かなり自己負担の軽減があったと思います。これからどれだけ社会に対しお返しができるか考える処です。③しかし、どうも高齢者になればなるほど、我儘になるような気がしました。看護師の言うことを聞かない、セクシャルハラスメントギリギリセーフ？いやアウトと思われる発言や、説明の仕方が悪い（実際は、聞いていない。）とか、食事制限を無視し、インシュリン投与を受けながら隠れてモソモソ等々。

以上、近況報告として書かせて頂きました。私の様な事が会員の皆様に起こらない事を祈念して終わりにさせていただきます。

長いこと、お読みいただきありがとうございました。獣医師モドキの私も今後も何らかの方法で社会貢献できるよう努力しますので、ご指導のほどよろしく申し上げます。



術後の肺。左肺下葉部が上に持ち上げられているのと肋骨切断部位



切除した左肺上葉部。ピンセットが腫瘍部分を摘まんでいます



切開部分とドレイン挿入部分

「山口県盲導犬使用者双葉の会」会長の来訪について

常務理事 酒 井 理

5月16日、「山口県盲導犬使用者双葉の会」会長の矢嶋薫さんが来訪され、本会が行っている双葉の会の活動への支援と盲導犬所有者への狂犬病予防注射料金の助成について、感謝の言葉を述べられました。

現在、14名の会員で活動されています。矢嶋会長さんは、数年前に白杖からハーネスに持ち替えられた後、精力的に盲導犬のPRに取り組んでおられ、本会にもご自宅からかなりの距離を歩いてこられました。

会長さんの「このあたりには点字ブロックがないですね」という話を聞いて、大きな道路に出てみると、山口市ふれあいセンターから新山口駅方面に設置されている点字ブロックが、反対側には全くない

ことに気がつきました。

先月の新聞に、「本年5月22日に補助犬法の成立から20年を迎えたが、盲導犬の受け入れ拒否が後を絶たない」と掲載されていました。

「盲導犬などの補助犬は、障がい者の体の一部である」という認識が社会全体に拡がるよう、協力していきたいと思えます。



お知らせ

第18回山口大学共同獣医学部附属動物医療センター 総合臨床セミナーのご案内

山口大学共同獣医学部から、次のとおり開催案内がありました。

- 日時：8月21日（日） 12:30～17:00
- 会場：山口大学吉田キャンパス・連合獣医学研究科棟4階大講義室
- 内容：＜教育講演＞
『これからの「抗菌薬」の話をしよう』
～耐性菌時代を生き抜くための実践的知識～
- 講師：東京大学附属動物医療センター 内科系診療科
茂木 朋貴先生
- 参加費：無料（ハンドアウト2,000円） 事前申込み不要
- お問い合わせ先：
E-mail: yuamec2@yamaguchi-u.ac.jp
HP: <http://ds22v.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuamec1/>

お知らせ

令和4年6月の主な行事

- 6月12日(日) 令和4年度定時総会・令和4年度山口県獣医師連盟通常総会（山口県セミナーパーク）
- 6月23日(木) 第1回小動物部会委員会（県獣会館）
- 6月28日(火) 産業動物部会・獣医公衆衛生部会合同委員会（県獣会館）

訃報

末富裕先生のご逝去を悼む

防府支部 岸 本 彦 生
(桑の山獣医科)



防府支部会員の末富裕先生が去る4月23日朝、肺がんのためご逝去されました。享年75。葬儀は家族葬で仏式(曹洞宗)にて営まれました。

先生は、昭和22年(早生まれ)防府市に誕生、鳥取大学に進学、卒後熊本の原種鶏場に勤務、その後昭和54年に帰防、小動物診療所を開設されました。

平成28年12月、偶然胸部写真にて、1円玉大の影が見つかり、翌月肺癌と診断され、当初の内服に因

る全身皮膚炎以外心身ともにお元気であり、今年1月までは日課の如くボーリングも楽しまれていたそうです。ただ、検査入院後「モチベーションも下がった、閉院する。開業歴40年に足りんのが無念だ」と話されていました。

我が山口県獣医師会では、平成2年より29年まで、理事6期、副会長延べ3期、監査1期を歴任され、中獣連等に於いても幅広く多くの知己を持たれ、巨視的に県獣の順路を支えられました。

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

訃報

田中周郎先生のご逝去を悼む

山口支部長 藤 原 宣 義



山口支部会員の田中周郎先生が4月21日に急性心筋梗塞のためご逝去されました。享年75歳でした。

先生は昭和21年に山口市でお生まれになり、昭和45年に山口大学農学部獣医学科を卒業後、同年に林兼産業株式会社に就職されました。47年同社を退職後、山口県に技術吏員として入庁され、宇部、山口、防府等の保健所で、食品衛生・環境衛生や試験検査等の業務に従事され、県の保健衛生関係の発展に尽力・貢献されました。

平成19年に県庁を定年退職された後は、体調不良

もあり、自宅で過ごされていましたが、令和3年4月に骨折を機に入退院を繰り返されるようになり、入院中の4月21日に、急性心筋梗塞により突然ご逝去されました。

情報を入手し、5月20日に田中会長・酒井常務と共にご自宅にお伺いし、ご霊前に哀悼の意を捧げました。

葬儀は家族葬で済まされ、お世話になった皆様ご連絡しなかったことを心苦しく思われており、皆様によりしくお伝えくださいとのことでした。

謹んで田中周郎先生のご冥福をお祈りいたします。

事務局だより

- 5月6日 ・岩柳支部総会(岩国市)
- 5月7日 ・下関支部総会(下関市)
- 5月8日 ・徳山支部総会(周南市)
- 5月12日 ・学会運営委員会(県獣会館)
- 5月12日 ・監査(県獣会館)
- 5月12日 ・防府支部総会(防府市)、山口支部総会(山口市)、美祢支部総会(美祢市)
- 5月16日 ・山口県盲導犬使用者双葉の会会長来訪

- 5月16日 ・定時総会会場打合せ(山口県セミナーパーク)
- 5月16日 ・産業雇用安定センター協議(県獣会館)
- 5月19日 ・第1回理事会(県獣会館)
- 5月20日 ・山口大学実験動物処置施設内覧会(山口大学)
- 5月24日 ・会報編集委員会(県獣会館)
- 5月24日 ・会計事務所協議(県獣会館)
- 5月27日 ・山口県庁、山口市、山口県医師会訪問協議
- 5月19日 ・事業推進会議

次回編集委員会 6月21日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第733号 令和4年6月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話(083)972-1174 FAX(083)972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上 田 晋 平

発行責任者 田 中 尚 秋

印刷 コロニー印刷

愛玩動物看護師 指定講習会

主催：一般財団法人動物看護師統一認定機構

一般財団法人動物看護師統一認定機構は、農林水産大臣及び環境省大臣より令和4年度の愛玩動物看護師法講習会※実施機関として指定を受けました。講習会は、2022年5月～8月にオンライン(オンデマンド)により講習映像を配信いたします。愛玩動物看護師となるために、既卒者・在学者、現任者が理解しておくべき、内容について学んでいただけます。申込に際し、受講者資格は設けておりませんが、愛玩動物看護師国家試験及び予備試験を受験される方は、受験要件となる「受験区分及び受講コース」を確認の上、お申込みください。

※「令和4年度愛玩動物看護師法附則第2条第1号及び第3条第2項の規定による農林水産大臣及び環境大臣指定講習会」

令和4年度指定講習会 開催要項

《申込期間・申込方法》

2022年5月2日(月)10:00～
2022年8月29日(月)16:00

- 講習会受講時間の選択の前に、愛玩動物看護師国家試験受験区分を確認してください。受験区分の確認には以下を確認してください。
- 下記の申込みのページで受講区分を選択し、申込を行ってください。受講料金の振込が確認されたら、受講が開始できます。



▶ 申込みページはこちら

《受講期間》 2022年5月2日(月)10:00 ～ 2022年8月31日(水)23:59

区分	受講時間	受講料金	定員人数・受講資格
既卒者・在学者向け	A 16時間コース(認定動物看護師資格有)	12,800円	定員制限無し 受講はどなたでもできますが、愛玩動物看護師国家試験受験時に受験資格として認められなかった場合、当機構は責任を負いかねますのでご承知ください。
	B 26時間コース	22,800円	
現任者向け	C 16時間コース(認定動物看護師資格有及び修学歴有)	12,800円	
	D 20時間コース(認定動物看護師資格有)	16,000円	
	E 30時間コース	26,000円	

- 受講料金のお支払いは、クレジットカード、コンビニ払い、銀行振込より選択いただけます。(すべて教材を含む、消費税込)
- 受講コース別に講義で使用するパワーポイントと同様の資料を副本として用意しています。動画視聴画面からダウンロードする事ができます。

講習会に関する問合せの受付期間及び問合せ先

- 最新情報やより詳細な情報は右記の本機構の公式ホームページ、「よくある質問」等ご確認ください。

問合せ受付期間 2022年4月1日(金)～2022年9月30日(金)

【問合せフォーム】 ※公式ホームページ内のフォームよりお問合せください。 https://www.ccrvn.jp/aigan_koushukai/contact/



一般財団法人 動物看護師統一認定機構

〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 タムラビル8階

https://www.ccrvn.jp/aigan_koushukai/